

(8) 浸透ゾーンの容量等

① 流出係数

工事中（工事段階毎）の流域面積及び流出係数を表-6.1.1(13)に、年次毎の排水計画を図-6.1.1(22)に示す。

カラ岳の切削については、本体工事と同様な発生源対策を行い、濁水処理対策については、施工2年次に空港本体の浸透ゾーンⅢに導くものとする。

なお、流出係数は、技術基準・文献・流量観測値による検討結果を勘案し、工事前後の地質・地表状況毎に、表-6.1.1(14)に示す0.1～0.9の値を用い、面積按分にて平均流出係数を算出した。

表-6.1.1(14) 流出係数条件一覧

状況	地質・地表の状況	流出係数	適用	
現況	難透水域 (トムル層(軟岩層))	0.7	検証結果からの係数(0.5)をカバーし、また軟岩(0.5～0.75)の平均値程度である、赤土等の対策指針の設計値を適用。	
	浸透域	0.1	検証結果(0に近似)及び土地利用状況(畑・草地)を踏まえ、計画地の地形勾配も考慮し、勾配7%以下の砂質土の芝生地(0.05～0.15)の平均値を適用。	
工事中	切土面	難透水域	0.8	のり面の軟岩(0.5～0.75)を参考にし、工事中の締め固めを考慮し、最大値を適用。
		浸透域	0.3	のり面の粗粒土(0.1～0.3)を参考にし、工事中の締め固めを考慮し、最大値を適用。
		植生域	0.5	芝区域を参考にし、工事中の締め固めを考慮し、粘性土を適用。
	盛土面	難透水域	0.9	工事中の締め固めを考慮し、他空港の粘性土の盛土法面の係数(0.5～0.9)の最大値を適用。
		植生域	0.5	芝区域を参考にし、工事中の締め固めを考慮し、粘性土を適用。